

「技報の発刊に寄せて」

国立大学法人としてスタートを切って4年が経過し、大学を取り巻く社会状況の変化は厳しさを増しており、同じ時期に発足した全学技術センターも例外ではありません。

全学技術センターの一技術系である当工学研究科技術部について言及すれば、今年度も従来と同様、全学に開かれた業務依頼の積極的な受入を実施し、また工学研究科の教育研究を支援し推進する一つの格を有する集団としての役割を果たしてきました。

科学技術の発展・高度化・多様化している時代にあって、大学技術職員の技術の高度化・専門化が問われており、電子・情報、機械、化学、環境・安全などそれぞれの専門技術分野はもとより、関連する技術においても更なる技術力アップが求められています。また、大学の法人化に伴い新しい技術分野として労働安全衛生法に基づく作業環境測定や安全・衛生巡視、職場の環境改善及び管理に関する業務、そして社会のニーズに即した大学の地域・社会貢献に関する業務、省エネルギー関連の業務も増加しています。

それらの要求に応えるために、技術職員はさまざまな機会を利用して新しい知識の習得、技術力の向上を心がけています。例えば、中部職業能力促進センター等の学外技術研修、技術発表、特別講演会開催、技術講習会等を意欲的に行い資質の向上を図り、教育研究支援業務に活かしています。これらの結果、今年度は総長裁量経費プロジェクトに1件が採択され、また技術職員が関係する受賞も2件ありました。

来年度から技術職員にも評価制度の導入が予想されますが、個々人の努力をしっかりと評価するとともに業務内容の精査によって、将来の方向性を明確にしていくことが必要と思われます。

本技術部技術報告書「技報」は、平成19年度における技術報告をはじめとする上述のような、種々な活動をまとめたものです。これは技術職員の努力の成果の記録であると同時に、教員及び外部に技術部の活動内容を発信する意味もあります。ご高覧いただければ幸いです。

なお、本誌の発行にあたり、多大なご尽力とご支援いただきました工学研究科長・副研究科長をはじめ、教員、事務職員、そして関係者の方々には、ここに心よりお礼申し上げます。

平成20年3月

工学研究科・工学部技術部

(全学技術センター部局系技術支援室工学技術系)

統括技術長 林 達也